

イザヤ書32-33章「正義と公正の都」

1A 正義による統治 32

1B 一人の王 1-8

1C 首長たちの公正 1-4

2C 高貴な人の支配 5-8

2B 平和な地 9-20

1C 安逸を貪る女 9-14

2C 御霊の注ぎ 15-20

2A 立ち上がられる主 33

1B 踏みにじられる地 1-9

1C 踏みにじる者への報い 1-4

2C 高い所に住む方 5-9

2B 食い尽くす火 10-16

1C 焼かれる諸国の民 10-12

2C 免れない罪人 13-16

3B 祝祭の都 17-23

本文

イザヤ書 32 章を開いてください。私たちは前回、31 章にまで、主が、ユダの国がエジプトに頼っていることを叱責しているところを読みました。エジプトに頼ったことで、かえってアッシリアに追い詰められます。エルサレムが取り囲まれた時、もう絶対絶命ですが、しかし、主に拠り頼んだヒゼキヤの祈りを見て、主は速やかに救い出しに來られます。それが、獅子が獲物を取るように戦われ、舞い飛ぶ鳥のようにエルサレムを守ってくださいます。アッシリアを主が倒します。

1A 正義による統治 32

そして 32 章に入ります。そこでは、ヒゼキヤが王として統治していることだけでなく、それ以上に、終わりの日にイエスご自身が神の国の王として君臨する幻が啓示されています。

1B 一人の王 1-8

1C 首長たちの公正 1-4

¹見よ。一人の王が義によって治め、首長たちは公正によって支配する。

「見よ」という言葉から始まっています。注意喚起していますが、それは「一人の王」を見つめてほしいからです。この王が世界を正義によって治めている幻です。イザヤはこれを、33 章に入って

も続けて見ており、33 章 17 節において「あなたの目は、美しい王を見、遠く広がった国を見る。」と言っています。そして、この方こそ、33 章 22 節で「まことに、主はさばく方」と言って、この方が主であると明言しているのです。

ですから、ヒゼキヤ王のことではなく、究極に救いをもたらす、主ご自身が地上を正義で治める幻がここに書かれています。イザヤは、このことを信仰の目でしっかりと見て、それで希望を抱いているのです。私たちもそうしたいですね。不義に満ちた世においても、必ず神が征服してくださる。そして、正義を世界に満たしてくださることを信じるのです。

そして、一人の王が正義によって治めるだけでなく、「首長たちは公正によって支配する」とあります。首長たちの「公正」というのは、神との正しい関係、人との正しい関係を、他の人々にも具体的に押し広げていくことを意味しています。例えば、神が自分の罪を赦した憐れみ深い方であれば、自分も他の人々に対して優しくして、憐れみ深くなることです。

神の国においては、王なる主イエス・キリストがおられて、そして首長たる、神の統治を任された者たちがいます。使徒に対して主は、「人の子がその栄光の座に着くとき、その新しい世界で、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めます。(マタイ 19:28)」と言われました。そして回復したイスラエルの民も、諸国の民を支配するようになることがイザヤ書 14 章 1-2 節にあります。そして教会がキリストとともに統治することは、何度も約束として啓示されています。「私たちが王国とし、祭司としてくださった…(黙示 1:6)」「私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。(ローマ 8:17)」

²彼らはそれぞれ、風を避ける避け所、嵐を避ける隠れ場のようになり、砂漠にある水の流れ、乾ききった地にある、大きな岩の陰のようになる。

これは、正義と公正によって支配を受けているため、その中にいる者たちに平和があり、守られて安心しているということです。これまで外敵による苛酷さはなくなり、慰められ、守られていることを意味しています。正しい裁き、正しい支配にいれば、それが私たちに平和と安全をもたらします。

義や公正なしの平和や安全はありません。多くの人が平和だけを求めます。誘拐された人がいて、犯人が人質と建物にたてこもっているならば、救出するのにひと悶着があります。だから、平和のために、そのままにしていこうとなるでしょうか？その犯人を捕まえて、人質を救出し、そして犯人は正しく裁かれることによって、初めて平和がありますね。

³ 見る者の目は固く閉じることがなく、聞く者の耳は注意深く聞く。⁴ 性急な者の心も知識を悟り、もつれた舌もはっきりと早口で語る。

これは、30章にもあった祝福です。「30:20-21 たとえ主があなたがたに苦しみのパンと虐げの水を与えても、あなたを教える方はもう隠れることはなく、あなたの目はあなたを教える方を見続ける。あなたが右に行くにも左に行くにも、うしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを、あなたの耳は聞く。」神の国においては、知恵と知識で人々が満たされます。目が閉ざされて真理が見えないということがなくなり、耳が閉ざされて神の御声を聞けなくなるようなことはありません。性急な人であっても、心に知識が与えられて、語れていなかった舌が、語られるようになります。

2C 高貴な人の支配 5-8

⁵ もはや、愚か者が高貴な人とは呼ばれず、ならず者が上流の人とは言われぬ。⁶ なぜなら、愚か者は愚かなことを語って、心で不法を企み、不敬虔なことを行って、主に向かって迷いごとを語るからだ。飢えている者を飢えさせて、渴いている者に飲み物を与えない。⁷ ならず者、そのやり方は悪質だ。彼は悪事を企み、貧しい者が正しいことを申し立てても、偽りを語って、苦しむ者を滅ぼす。⁸ しかし、高貴な人は高貴なことを計画し、高貴なことに堅く立つ。

この人間の世界では、本来、治めるべき者でない者が治めています。そのために、どれだけの悲惨が起こっている事でしょうか。「愚か者」はナバル、であり、まさにサムエル記第一 25章で、アビガイルの夫のナバルであります。彼が富を持っているので影響力がありましたが、もはやそのような者が高い地位に着くことはありません。今の世にある曲がった状態を、神はまっすぐに正されますが、それは、公正に支配することのできる首長に取り替えるということです。

2B 平和な地 9-20

1C 安逸を貪る女 9-14

⁹「安逸を貪る女たちよ。立ち上がって、わたしの声を聞け。うぬぼれている娘たちよ。わたしのことばに耳を傾けよ。¹⁰ うぬぼれている女たちよ。一年と少しの日がたつと、あなたがたはわななく。ぶどうの収穫がなくなり、その取り入れもやって来ないからだ。¹¹ 安逸を貪る女たちよ、震えよ。うぬぼれている女たちよ、わななけ。着物を脱いで裸になり、腰に粗布をまとえ。¹² 胸を打って嘆け。美しい畑、実り豊かなぶどうの木のために。¹³ 茨やおどろが生い茂る、わたしの民の土地のために。そして、楽しい家々のすべて、おごる都のために。¹⁴ なぜなら、宮殿は見捨てられ、町の騒ぎもさびれ、オフエルと見張りの塔は、いつまでも荒れ野に、野ろばの喜ぶところ、群れの牧場になるからだ。」

こちらの安逸を貪っている女は、愚か者が支配しているために不正と虐げが行われているのに、自分自身は大丈夫だからとして安逸を貪っている姿です。これは、不正が行われているエル

サレムの姿であります。なぜなら、14 節に「オフエル」とありますが、これは、ダビデの町と神殿の丘の間にある部分だからです。エルサレムでも不正が行われていたら、神によって裁かれます。

不正が行われているのに、それに対して心を痛めていない姿です。義に飢え渴いていない姿です。自分は大丈夫だから、自分の生活さえ保障されていれば、他のことはどうでもいいという人々がいることによって、愚か者の支配が続くようになります。主は、そういった人々に対して裁きを行われますが、それは、それら贅沢品を根こそぎなくすことによって果たされます。それがないので、わなないて嘆き悲しむのです。

教会にも、「今の状態で間に合っています」という態度を見て、イエス様が叱責している教会がありましたね。ラオディキアにある教会です。「黙 3:15-17 わたしはあなたの行いを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。そのように、あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしは口からあなたを吐き出す。あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、衰れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっていない。」

2C 御霊の注ぎ 15-20

このようにして、エルサレムも神からの懲らしめを受けて、安逸を貪る者はわななき、エルサレムは荒野となるのですが、主は、恵みによって御霊を注がれます。主が再び来られる時に、それを完成して下さいます。

¹⁵しかし、ついに、いと高き所から私たちに霊が注がれ、荒野が果樹園となり、果樹園が森と見なされるようになる。¹⁶ 公正は荒野に宿り、義は果樹園に住む。¹⁷ 義が平和をつくり出し、義がとこしえの平穏と安心をもたらすとき、¹⁸ 私の民は、平和な住まい、安全な家、安らかな憩いの場に住む。¹⁹ あの森は雹が降って倒れ、あの町は全く卑しめられる。²⁰ ああ、幸いなことよ。すべての水のほとりに種を蒔き、牛とろばを放し飼いするあなたがたは。

いと高き所からの霊、つまり神の御霊が、約束の地、イスラエルに注がれます、平安と喜び、安全を確保できる時代へと変わります。ますます暗き世になっていきますが、聖霊の働きの中でこれまでにない、とてつもない喜びと平安、また確信が与えられるのです。教会には今、御霊が注がれて、これらの実を結ばせることができますが、主がこの地上に戻って来られる時に、その御霊の働きは全開して、荒廃したこの地上を果樹園のように変えられるのです。

そして、正義によって治める王がおられ、その義がその地に満ちます。また首長たちが公義でつかさどるので、公正も宿ります。そのおかげで、平和、平穏、信頼をもたらすのです。そして、雹が降って倒される 19 節の「あの森、あの町」とは、おそらく神の国が建てられる前に残っている町の

ことでしょう。バビロンかもしれません。黙示録 16 章の最後に、大バビロンへの裁きが書かれています、「一タラントほどの大きな雹が、人々の上に一タラントほどの大きな雹が、天から人々の上に降った。(16:21)」と書かれています。そして最後に、安心して種を蒔き、家畜を放し飼いにできることが幸いであると言っています。

私たちには理解が難しいかもしれませんが、目の前に外敵がいる、荒らし、強奪する者たちがいるなかで、このような状態は福音の何物でもありません。主がそこを治めておられるなら、そこには安心と平穏があるし、そして御霊が降り注がれるなら、平和や秩序を乱す分子は神ご自身が取り除いてくださいます。主との正しい関係の中にいる、そしてその中で他者に対しても接していく、そのような中で、御霊が注がれて、実を結ばせるような状況が出て来ています。

2A 立ち上がられる主 33

33 章は、再び、エルサレムを滅ぼそうとするアッシリアに対する裁きに戻ります。そして、主が立ち上がる、という言葉が何度となくでできます。主は、御座におられて、いと高き所に住まわれる方です。しかし、立ち上がられて、ご自分のことを実行に移されるのです。

1B 踏みにじられる地 1-9

1C 踏みにじる者への報い 1-4

¹ わざわいだ。自分は踏みにじられなかったのに、人を踏みにじり、裏切られなかったのに、人を裏切るあなたは。自分が踏みにじることを終えるとき、あなたは踏みにじられ、裏切りをやめるとき、あなたは裏切られる。

「わざわいだ」という言葉から始まっています。これは、アッシリアに対する言葉です。彼らが、数々の国々を征服し、踏みにじていきました。しかし、彼らがそれをやめた時に、踏みにじられる、裏切られると主は言われます。そうですね、これは高ぶった者たちの姿です。自分が貶められることを恐れて、それで他の人々を貶めていくのですが、貶め続けなければ自分が貶められることを知っています。しかし、それはいつまでも続きません。だから、「箴 16:18 高慢は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。」と、箴言に書いてあるとおりになります。

² 主よ、あわれんでください。私たちはあなたを待ち望みます。朝ごとに私たちの腕となり、苦難の時の、私たちの救いとなってください。³ その鳴りとどろく声に、もろもろの民は逃げ、あなたが立ち上がると、国々は散らされます。⁴ あなたがたの分捕り物は、いなごの若虫が集まるように集められ、いなごの群れが飛びつくように 人々はそれに飛びつく。

今、エルサレムに取り囲まれている者たちの、主を待ち望む者たちの声がここに書かれています。朝ごとに待ち望んでいます。待っても次の日の朝、やはりアッシリア軍が包囲していました。け

れども、1 節に語られている言葉を信じて、彼らが自分たちで倒れることを信じて、待っている姿です。主が復讐して下さる、主が救って下さると信じて待っているのです。そして主が立ち上がれば、これらの軍隊は散らされて、残された分捕り物をあさるようにして下さると願っています。

2C 高い所に住む方 5-9

⁵主はいと高き方で、高い所に住み、シオンを公正と義で満たされる。⁶主はあなたの時を堅く支え、救いと知恵と知識の富となられる。主を恐れることは、その財宝である。

すばらしい約束です。まず、主はいと高き所におられる方です。どんな強い勢力がいようと、それよりも主は高い所におられます。私たちにどんな悪の勢力があろうとも、主はさらに高いところにおられます。そして、「シオンを公正と義で満たされる」です。シオンとは、今、ヒゼキヤまたエルサレムの住民が主を待ち望んでいるその場所であり、自分が主を待ち望んでいるところで、主が必ず、公正と義で満たして下さいます。

そして、主は彼らのために時を堅く支えておられます。その時が来たら、必ず救いを実行して下さるのです。そして、神の救いと知識と知恵に満ちます。神が救って下さいます。そして、神を知ることに豊かにされます。そして、「主を恐れる」所に、知識と知恵があります。

⁷見よ。彼らの勇士は通りで叫び、平和の使者たちは激しく泣く。⁸大路は荒れ果てて、道行く者は途絶え、契約は破られて、町々は捨てられ、人は顧みられることがない。⁹地は喪に服してしおれ、レバノンに辱めを受けて枯れ果てる。シャロンは荒れ野のようになり、バシヤンもカルメルも葉を振り落とす。

これは、アッシリアによって倒されていくユダの勇士たちのことです。そして和平交渉を試みるもすべて失敗している人々の姿です。そして、アッシリアの侵攻によって、大路が荒れ廃れ、町も捨てられている姿です。そして、杉の木で有名なレバノン、シャロン、バシヤン、カルメルも農耕や牧畜で有名ですが、そこが荒れ廃れてしまっています。

2B 食い尽くす火 10-16

1C 焼かれる諸国の民 10-12

¹⁰「今、わたしは立ち上がる。——主は言われる——今、わたしは自らを高く上げ、今、わたしは自らを高める。¹¹あなたがたは枯れ草をはらみ、藁を産む。あなたがたの息は、自分たちを食い尽くす火だ。¹²諸国の民は焼かれて石灰となり、刈り取られて火をつけられる茨となる。」

主は、遅すぎることなく、立ち上がってくださいます。私たちにはそう感じてしまうかもしれませんが、決して遅れることはありません。「ハバ 2:3 この幻は、定めの時について証言し、終わりについて告げ、偽ってはいない。もし遅くなっても、それを待て。必ず来る。遅れることはない。」

そして、主はご自身を自ら高く上げると言われます。つまり、人々が主を主としてみなしていない時に、他に強い勢力がある時に、主ご自身がそれ以上の力と威厳をもって臨まれるということです。そして、ことごとく裁きを行われます。頑なにご自身を拒む者たちの目にも、否応なしにこの方が神であることを見せる時が来るのです。

2C 免れない罪人 13-16

¹³「遠くの者よ、わたしのしたことを聞け。近くの者よ、わたしの力あるわざを知れ。」¹⁴ 罪人たちはシオンでわななき、神を敬わない者たちを震えがとらえる。「私たちのうち、だれが焼き尽くす火に耐えられるか。私たちのうち、だれが、とこしえに燃える炉に耐えられるか。」

主が全ての者たちにご自分を知らせる業を行なわれる時に、エルサレムから遠くにいる者たちには、伝聞として伝わっていきます。かつて、エジプトにおいて紅海をイスラエルが渡り、エジプトの精鋭部隊をすべて水に沈めた時に、それがカナンの町々にも伝わっていたのでラハブが、そのことを自分が匿ったイスラエル人に伝えました。それと同じようにするとされており、そして近くにいる者たちは、間近でその偉大な力を目撃します。そして、その火による裁きは自分たちをも飲みこむのではないかと恐れています。

¹⁵ 義を行う者、公正を語る者、強奪による利得を退ける者、手を振って賄賂を受け取らない者、耳をふさいで流血について聞かない者、目を閉じて悪いことを見ない者。¹⁶ このような人は高い所に住み、その砦は岩場の上の要害である。彼のパンは備えられ、彼の水は確保される。

義を行う者たちは、この神の火による裁きから害を受けることはありません。その人たちは、具体的にはどう言う人かをここに書いています。一つは、「公正を語る」ということです。つまり、偽りが無いということ、真実を語るということです。そして、強奪や賄賂と言ったような、計算した動きをしないことです。そして、悪から遠ざかります。耳においても目においてもそうです。このような者たちが主によって守られており、また備えも与えられるということでもあります。

終わりの日には、イスラエルの民の中でもえり分けが行われます。残りの者と呼ばれる者たちが、15 節からの人々であり、そうでない者は反逆者であり 14 節に書いているような者たちです。エゼキエル書にこうあります。「20:37-38 わたしはまた、あなたがたにむちの下を通らせ、あなたがたを契約のくびきの下に連れて行き、あなたがたの中から、わたしに背く反逆者をより分ける。」

わたしは彼らをその寄留している地から導き出すが、彼らはイスラエルの地に入ることはできない。そのときあなたがたは、わたしが【主】であることを知る。」

3B 祝祭の都 17-23

¹⁷ あなたの目は美しい王を見、遠くまで広がる国を眺める。¹⁸ あなたの心は、恐ろしかったことを思い巡らす。「数えた者はどこにいるのか。量った者はどこにいるのか。やぐらを数えた者はどこにいるのか。」¹⁹ あなたはもう横柄な民を見ない。難しくて聞き取れない外国語を、口ごもって、わけの分からないことばを話す民を。

時は終わりの日の幻です。「美しい王を見、遠くまで広がる国を見る」とあります。ああ、なんとこの日が待ち遠しいことでしょうか！麗しき主、イエス様が王となられて、そして遠くにまで広がった御国があります。そしてそこには、アッシリアのような横柄な民はいません。以前、エフライムに対する裁きで、外国の言葉を自分たちのところで聞くようになる、というものがありませんでしたが(28:11-13)、もう支配する民の外国語は聞かれなくなる、ということです。

²⁰ 私たちの祝祭の都、シオンを見よ。あなたの目は、安らかな住まい、移ることのない天幕、エルサレムを見る。その杭はとこしえに抜かれず、その綱は一本も切られない。

イザヤは美しい王から、回復したシオン、エルサレムを見ています。そこは一つに、「祝祭の都」です。主をほめたたえ、主を祝福する祭りが行われているところです。そして、そこは安らかで、取り払われることはありません。これまで、エルサレムは敵によって引き抜かれることがありました。バビロンによって、ローマによって引き抜かれました。しかし、永遠の都においては、安全で、安心です。したがって、皆さんの与えられている神の救いも、安全で安心なのです。

²¹ しかも、そこには威厳ある主が 私たちとともにいてくださる。そこには多くの川があり、幅の広い川がある。櫂で漕ぐ舟もそこを通わず、大船もそこを通らない。

シオンには、川が流れています。エゼキエル書には、この川の水源は神殿そのものであり、そこから流れ出る水がエルサレムを通り、それから地中海と死海に流れ込むことが書かれています。王の都の前の川には船が通っていないのは、王に対する敬意を示しているためです。そこに、人々が邪魔しにこない、主の前にただひれ伏す威厳の空気だけが漂っています。

²² まことに、主は私たちをさばく方、主は私たちに法を定める方、主は私たちの王、この方が私たちを救われる。

主をほめたたえています、民主主義の中にある「三権分立」の三つの権威がすべて書かれて

います。主が裁かれる方というのは司法のことです。法を定める方とは、立法のことです。それから「王」、行政です。人にこれらの権力を集中させてはいけないということで三権分立がありますが、主がその三つの務めを担われます。

²³ あなたの帆の綱は解け、帆柱の基に結ぶこともできず、帆を張ることもできない。そのとき、おびただしい数の分捕り物が分けられ、足の萎えた者も獲物をかすめる。

ペテロが、イエス様の命令に従った時に、大漁になって船が傾いたように、とてつもない数の魚がつれるのでしょう。そして、あまりにも大漁なので、足の萎えた人も手に取ることができます。

²⁴ そこに住む者は「私は病気だ」とは言わず、そこに住む民の咎は除かれる。

病が癒されます。病の癒しと共に罪の赦しも与えられます。病と罪の赦しはつながっています。病が直るということは、単にその箇所が癒されること以上に、全人的な癒しが与えられることです。罪によって病が入りましたが、その罪が取り除かれるなら、霊と魂だけでなく体も癒されます。

以上、主が王となり義をもって治めるとどうなるか、その幻を見ました。主が立ち上がれる時があります。私たちはその時まで不義に対して神に訴えますが、主は必ず報いてくださる時が来ます。